



心のバリアフリー研修



# 障害平等研修

## Disability Equality Training (DET)

- SDGs「誰一人取り残さない」 国連内でも行われている世界水準の障害平等研修(DET)(※1)
- 東京2020オリンピック・パラリンピック フィールドキャスト(ボランティア)の集合研修にも採用
- 障害平等研修(DET)は内閣府 障害者差別解消に関する総合的・部門横断的職員研修(※2)として公表されている研修。
- 内閣官房が実施したオリンピック・パラリンピック基本方針推進調査「ユニバーサルデザインの社会づくりに向けた調査」試行プロジェクト(※3)にも採択されている研修。
- 障害平等研修(DET)は国土交通省 交通事業者向け接遇研修モデルプログラム(※4)に障害当事者講師の紹介窓口や障害当事者を講師として研修を実施している団体として紹介。

DET埼玉

## DET埼玉

# 障害平等研修とは



## ◆ 障害者差別解消法を推進するための研修

### 障害者差別解消法

第五条 **行政機関等及び事業者**は、社会的障壁の除去の実施についての必要かつ合理的な配慮を的確に行うため、自ら設置する施設の構造の改善及び設備の整備、**関係職員に対する研修**その他の必要な環境の整備に努めなければならない。

## ◆ 障害者との対話を通して、共生社会を作る行動を促す 障害教育

## ◆ 3つの特徴:

- 障害の社会モデル
- 発見型学習
- 障害者がファシリテーター

出典:障害平等研修フォーラム

# 障害平等研修(DET)他の研修との違い



研修	内容	結果(目標)
疑似体験	機能障害(できない)の体験 障壁の体験	障害者を助ける 物理的障壁の理解
講演会	困難を乗り越えた成功談	“元気をもらおう” (自分の問題解決)
<b>DET</b>	<b>差別の発見と解決行動形成</b>	<b>解決の行動主体</b>

DET埼玉

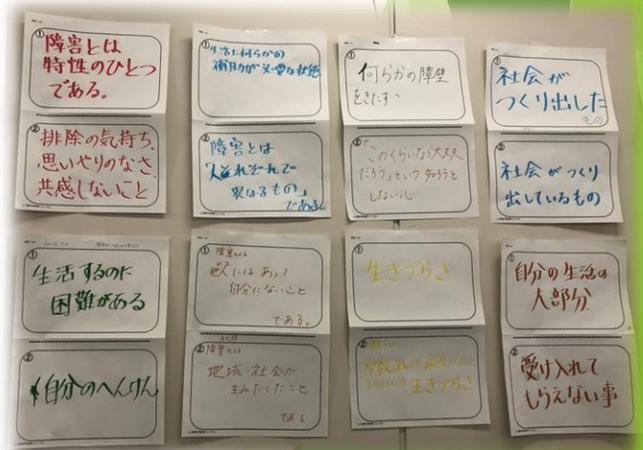
# 障害平等研修 の方法



- ▶ 基本3時間の研修  
(3時間未満の研修も可、前半・後半に2回に分けての実施可)
- ▶ 4人が1グループのワークショップ
- ▶ 障害者がファシリテーター(進行役)

① 障害とは  
 体のどこかに不自由な人。  
 体の不自由な人へ対して  
 不自由な思いや偏見にさらされた世の中  
 である。

② 障害とは  
 障害者(の)と非障害者(の)が  
 平等にあつかわれない世の中。  
 (障害者の人びとが非障害者と同じように暮ら  
 せない) である。



# 障害者差別解消法を推進する研修



~~単に障害についての知識の獲得~~



- ▶ 障害を差別や排除という人権課題として見抜く社会分析の“**視点の獲得**”
- ▶ その解決のために社会や環境を変えていく具体的な“**行動の形成**”

# 障害平等研修の評価点



- ① 障害の社会モデルの視点の獲得
- ② 多様性に基づいた共生社会を実現するために自分自身ができる具体的な社会を変える行動の理解と形成
- ③ 行動の実施
- ④ 多様性に基づいた共生社会を価値あるものとする価値観や行動、態度の獲得

障害平等研修フォーラムは、内閣府が2016年度に実施した「オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査（ユニバーサルデザインの社会づくりに向けた調査）試行プロジェクト」（※2）での調査研究事業において、①②④についての効果に関する実証的研究を行い、障害平等研修によって有意な効果が得られることを実証しました。また③についてはこの研究で質的な調査を行い、様々な行動が喚起され実施されたことも分かりました。

（久野研二『社会の障害をみつけよう 一人ひとりが主役の障害平等研修』現代書館より引用）

# 当事者と学ぶDEET

障害平等研修

## 五輪ボランティア必修

東京五輪・パラリンピックで競技会場などの案内をする大会ボランティアの研修が11都道府県を会場に始まっている。大会組織委によると、今回は五輪・パラリンピックで初めて取り入れられ、ボランティア全員が受けるプログラムがある。それが障害平等研修（DEET）だ。障害者が進行役となり「障害とは何か」「解消のために何ができるか」を考える。

この日の進行役は車いす利用者や視覚障害者ら6人。冒頭、約50人の参加者に、それぞれが考える「障害」の定義を手元の用紙に書き出すよう求めた。「生きづらさを感じる人の総称」「不自由」…。障害者に着目した言葉が目立った。

葉が目立った。今度は、買い物をするようにしている車いすの女性のイラストが配られた。「障害はどこにあると思いますか?」。車いすを使う埼玉県入間市の上野優一さん(51)が、該当すると思う箇所に付箋を貼るよう指示すると、参加者は周囲と意見を交わしながら付箋を貼っていた。車いすの前の段差、手の届かない棚に陳列された商品、サポート役が不在の空間。貼られた箇

所はほとんどが女性の「周りの環境」だった。続いて、障害者と健常者の立場が逆転した「架空の世界」のビデオが上映された。健常者の主人公はタクシーやバスに乗車できず、カフェでも入店を拒まれる。公園では奇異の目を向けられ、訪問先で点字資料を渡されるが読めない。 「障害とは何だと思えますか」。上野さんの問いかけに、参加者は改めて手元の用紙にペンを走らせた。「健常者がつくり出した」「現在『障害がない』と言われている人の中に」。多くの答えが、冒頭に書いた内容とがらりと変わっていた。研修後、上野さんは「障害は社会が生み出している、という考え方が伝わったのでは」と手応えを感じた様子だった。東京大会組織委の担当者は「世界中から多様な人を受け入れるのに重要なプログラムだ」と話している。

# 障害——社会が生み出したもの



【斎藤文太郎、写真も】

ボランティア研修は10月にスタートし来年2月まで続く。約8万人がそれぞれ3時間の講習を受け、大会の歴史や概要を

障害平等研修（DEET）



1990年代に英国で開発された。日本では2014年度から導入され、近年急速に広がっている。進行役の障害者の育成に当たるNPO法人「障害平等研修フォーラム(東京都大田区)」によると、導入当初の開催は年10回程度で大学や市民講座などが中心だった。その後、進行役の育成が進むとともに企業や行政機関からの依頼が増え、18年度は200回以上にまで増えた。17年度以降、東京五輪組織委の中でも実施されている。

## 「見えないふり」に危惧



畠本彩美さん  
—本人提供

不安も感じている。

先天性の視覚障害がある横浜市の会社員、畠本彩美さん(30)は東京五輪・パラリンピックのボランティア向けのDEETで進行役を務める。東京大会は楽しみだが、障害者への理解が本心に進むの

か不安も感じている。今年10月、視覚障害者の知人が東京都のJR新宿駅でホームから転落し電車にはねられ亡くなった。フラインドサッカー元日本代表選手の石井宏幸さん(当時47歳)。畠本さんも学生時代からさいたま市のフラインドサッカーチームに所属している。事故時、周囲には多く

の通勤客がいたとされる。「誰かが『大丈夫ですか』と声をかけていれば防げたのではないか」。そんな思いが脳裏から離れない。「障害者は周囲の健常者から見えないふりをされがちだ。DEETは互いがしっかりと向き合えるようになっている。『周囲に困ってほしい』という声がかけるか、せめて見守ってほしい」



障害とは何かについて意見を交わす参加者ら。埼玉県玉戸市で

# 「障害とは？」 広がる学び

2020.01.22  
読売新聞

## 「壁は社会に」 考え主流

東京五輪・パラリンピックの開催を今夏に控え、障害について考える学校の授業や企業の研修が増えている。特に障壁（バリア）の原因は障害者の側にあるのではなく、社会にあるという「障害の社会モデル」の考え方を取り入れた授業も多く、大会ボランティアの研修にも盛り込まれている。

障害の社会モデル 障害は個人の心身の機能的な制限ではなく、環境や人の態度など社会の様々な障壁によって作り出されるものという考え方。2006年に採択された国連の障害者権利条約に取り入れられ、日本政府が17年に作成した共生社会の実現に向けた行動計画でも、こうした考え方が盛り込まれている。

### 中学で企業研修で



共生社会のあり方について生徒に語りかける飯本さん（右）ら。昨年9月、埼玉県所沢市の市立美原中学校で。

「障害って何だと思っ？」。昨年9月下旬、生まれつき視覚障害のある飯本彩美さん30が埼玉県所沢市の中学校の体育館で、中学2年生約220人にこう語りかけた。生徒からは「体が不自由なこと」「不便なこと」などの意見が出た。

そこで飯本さんが、車いすに乗って買い物に向かう女性のイラストを示し、「どこに障害があるかな？、ペンで囲んでみよう」と促し

た。生徒たちは、階段や狭い店内など女性を取り巻く障壁の存在に気づき、丸で囲んでいく。続いて、障害者が多数を占める世界に健常者が迷い込むストーリーの映像が流された。障害がないことを理由に飲食店の

のボランティアの研修にも採用されている。慶応義塾大の中野泰志教授（障害心理学）は、「障害の社会モデル」の考え方が浸透する、ことは、障害者だけでなく、外国人や高齢者などを含め、誰もが住みやすい社会への一歩となる」と指摘している。

Tokyo  
2020

DET埼玉が所沢市社会福祉協議会から依頼を受け所沢市立美原中学校に障害平等研修(DET)を実施

2020.01.22 上毛新聞  
群馬県知事参加のDET

### 心のバリアフリーで 差別や障壁の解決を

障壁による差別や社日、県庁で行われた。会に出席した約60人。山本一太知事は約60人向け、県の幹部らを対象に「障壁に対する多様な視点」を学んだ。視点を学んだ。共生社会を目指し障

者や障害者をつくるDE提起。参加者は、健常者や障害者の世界が逆転した想定の世界を体験した。参加者は、健常者や障害者の世界が逆転した想定の世界を体験した。参加者は、健常者や障害者の世界が逆転した想定の世界を体験した。



障壁に対する多様な視点を学んだ研修

### 県内職員70人が参加 障害平等研修(DET)

2017.8.3  
ぐんま経済新聞  
掲載

県は7月18日、「障害者差別解消研修会」を県庁ビルで開いた。障がい者に対する理解、差別の撤廃と合理的配慮の提供を推進するため活動しているDET群馬の障

害平等研修(DET)の内容と効果を、実例を交えて紹介した。県職員や市町村職員など約70人が参加した。DETとは、障がい当事者が進行役を務め、参加者と一緒に対話しながら学ぶ。発見型障がい学習研修。疑似体験やマナー研修と異なり、障がい者本人の行動を体験するための研修となる。



3人の車いすファシリテーター

DET群馬は、16年7月に活動を始めた任意団体で、3人の車いすファシリテーターと賛同するサポーターの合計約40人でDETを広げる取り組みを行っている。これまでに40回超の開催実績がある。

今回の講師も高橋宣隆氏、飯島邦敏氏、細野直久氏の車いすファシリテーター3人が務めた。

(山田誠二)

# 障害平等研修実施機関



- ▶ 地方議会議員
- ▶ 都道府県庁職員等行政職員
- ▶ 区市町村職員
- ▶ 社会福祉協議会
- ▶ 学校等教育機関（教職員・生徒含）
- ▶ 福祉法人施設職員
- ▶ 民生委員
- ▶ 商工会議所
- ▶ 企業 等々

DET埼玉研修実績：オリンピック・パラリンピック東京2020大会フィールドキャスト（大会ボランティア）研修・群馬県知事参加の群馬県庁幹部DET・茨城県庁障害福祉課 茨城県全市町村福祉課職員対象DET・入間市職員研修・入間市障害者基幹相談支援センター・和光市社会援護課・入間市社会福祉協議会・所沢市社会福祉協議会・和光市社会福祉協議会・和光市障害者自立支援協議会・埼玉県立高等学校教職員・早稲田大学・武蔵野大学・首都大学・民生委員児童委員協議会・彩の国福祉教育ボランティア学習推進員ネットワーク（あったかウエルねっと）・戸田市身体障害者福祉会・新所沢まちづくり協議会・TOMOTOMOくらぶ・さんさん会・小中学校 他

障害平等研修(DET)についてのお問合わせ

DET埼玉 代表 上野 優一

TEL:090-1362-7565 MAIL:det.saitama@gmail.com

※1 秋山愛子さん実施報告（国連ESCAP 社会課題担当官） <https://youtu.be/jXDnfiPcxwQ>

※2 内閣府HP [https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/tyosa/h29kokusai/h2\\_02\\_d.html](https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/tyosa/h29kokusai/h2_02_d.html)

※3 平成28年度オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査報告書HP [http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020\\_suishin\\_honbu/udsuisin/pdf/201703\\_hokoku.pdf](http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/udsuisin/pdf/201703_hokoku.pdf)

※4 交通事業者向け接遇研修モデルプログラム [http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/sosei\\_barrierfree\\_tk\\_000176.html](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/sosei_barrierfree_tk_000176.html)